

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2015No.32】(HP 収載)

分類： ネットストリーミング

局等： ベルリンフィル Digital Concert Hall

作曲家： グスタフ・マーラー

曲名： 交響曲 1 番

演奏： グスターボ・ドゥダメル指揮ベルリンフィルハーモニー

関連サイト： <https://www.digitalconcerthall.com/ja/concert/20444#watch:20444-2>

概要：

2015 年 6 月 13 日、ベルリンフィル大ホールでの演奏です。当然すぐに比較されるのはラトルの指揮のものです。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2015/01/7d402d3d746f6498fbc1050cf4008fc5.pdf>



ドゥダメルは 2004 年から始まったグスタフ・マーラー指揮者コンクールの第 1 回の優勝者でベルリンフィルとのコンビは客演指揮者として経験済みです。

さらに手元にある次のようなソースとも聴き比べてみました。CD と Digital Concert Hall は画像も添付いたします。

アナログ：

ジュリーニ/シカゴ

CD：

アバド/ベルリンフィル

小澤征爾/ボストン

インバル/チェコフィル

オラモ/ロイヤルストックホルムフィル

Digital Concert Hall：

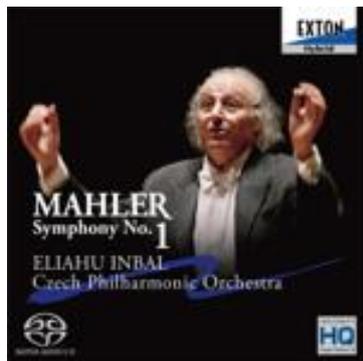
ラトル／ベルリンフィル

BS 録画：

ラトル／ベルリンフィル(In Singapole)

セガン／フィラデルフィア

広上淳一／京都市響



インバル／チェコフィルは以前に BS 放送で都響を指揮したものを聴いていますが、それと同じく歌うというか唸るというか、インバルの声もしっかり入っていて、インバルらしい押しの強い演奏です。オラモ／ロイヤルストックホルムフィルは若いだけあってややアップテンポで切れの良い演奏です。インバル／チェコフィルとオラモ／ロイヤルストックホルムフィルはともに EXTON レーベルの DSD 録音ですが、アバド／ベルリンフィルと小澤征爾／ボストンフィルは DDD 録音と書いてありますので DAT 録音ではないかと思われ、前 2 者とは明らかに音が違います。アバド／ベルリンフィルと小澤征爾／ボストンフィルを比べますと、やはりドイツのオケとアメリカのオケという違いが聴き取れますし、アバド／ベルリンフィルは指揮者や音源のフォーマットが変わってもラトル／ベルリンフィルの Digital Concert Hall の演奏と共通点が見られます。

ラトル／ベルリンフィルの BS 録画は、音源のフォーマットやホールが変わってもラトル／ベルリンフィルの Digital Concert Hall の演奏とほとんど違いはありません。セガン／フィラデルフィアの BS 録画は、若さにまかせて疾走するマーラーですし、広上淳一／京都市響の BS 録画は、ややこじんまりとまとまったマーラーです。

ジュリーニ／シカゴのアナログは、時代を感じさせるところがありますが、やはりアメリカのオケと言う印象です。音は当然ながら他とまったく異なったもので、解像度や切

れは若干物足りないものの、ソノリティは魅力的なところがあります。

肝心のドゥダメル／ベルリンフィルですが、ラトル／ベルリンフィルとどう違うかと言え、ドゥダメル／ベルリンフィルの方はテンポや音量の揺らぎの幅が広く、アバド／ベルリンフィルやラトル／ベルリンフィルと違って新しいドゥダメルの解釈が聴き取れます。不思議なことに同じ最近のベルリンフィルの **Digital Concert Hall** の演奏ですが、ラトル／ベルリンフィルの方が音の響きがよく溶け合い、安定感があります。

なお、パワーリベラメンテ導入の初期にも以上の音源を聴いていますが、その後クロックジェネレーターへのパワーリベラメンテの追加などで随分と音質が向上しています。

<http://audiokenkyu.sakura.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2013/11/ed484f273ccd91611fe6e7542571d47c.pdf>